

～特に現れてほしい子供の姿と重点～

各教科等で特に現れてほしい子供の姿

国語

○単元の課題解決に向けて、言葉に着目した吟味を重ねている

社会

○社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察し、課題を追究したり解決したりしている

算数・数学

○日常生活や社会、数学の事象に関わる問いを見いだしている
○数学的な表現を用いて交流し、自他の考えを広げ、深めている

理科

○日常生活や社会での事象と関連した単元の課題を設定している
○多面的な視点からより妥当な考えをつくり出している

生活

○なりたい自分になるために、学習対象に関わり続けている

音楽

○曲や演奏のよさや美しさを見付け、確かめながら聴き返したり、思いや意図をもって様々な音楽表現を試したりしている

体育・保健体育

○各領域の特性や魅力に応じて意欲を高めたり、学習の成果や課題を実感したりしている
○仲間と積極的に関わったり、自他の気づきや意見を生かしたりして課題を解決している

各教科等の指導の重点

- ・指導事項に基づいた必要感のある言語活動を、児童生徒と共有する。
- ・理解したり、表現したりした言葉に立ち返るきっかけとなる発問や問い返しを行う。

- ・児童生徒の考えの根拠となる資料を精選し、その資料から読み取らせたいことを明確にする。
- ・児童生徒の考えを深める交流活動（伝え合う、考えを発展させる、合意形成に向かう等）を設定する。

- ・解決方法、理由、性質、関係等に関わる問いを教師と児童生徒が共有する。
- ・他の考えを理解する活動と、比較・検討、関連付けを図る活動を意図的に設定する。

- ・単元のまとめを児童生徒の言葉で具体的に想定し、日常生活や社会との関連を重視した単元を構想する。
- ・児童生徒が働かせた様々な理科の見方・考え方を取り上げ、予想・仮説や計画、考察等を検討する。

- ・単元の導入において、学習対象と十分にに関わり、自分とのつながりを考え、思いや願いを実現した自分をイメージする場を設ける。
- ・思いや願いの実現状況を自覚したり、次にやりたいことを表現したりする活動を設定する。

- ・音や音楽を捉える視点となる音楽を形づくっている要素を明確にして題材を構想する。
- ・言語活動と音楽活動とを往還させ、知覚・感受したことと音楽を形づくっている要素の働きとの関わりについて、実感を伴った理解を促す。

- ・めあてと振り返りを設定し、自己や仲間の課題を見付けることができるようにする。
- ・身体活動量を十分に確保するとともに、仲間と積極的に関わりながら課題を解決する活動を取り入れる。
- ・自他の気づきや意見を生かした課題を解決する活動を設定し、日常生活に基づいた学習活動を進める中で、教材、発問、1人1台端末の活用等を工夫する。

～特に現れてほしい子供の姿と重点～

各教科等で特に現れてほしい子供の姿

図画工作・美術

○自分なりのよさや美しさを見付けたり表したりしている

技術分野

○生活や社会の中から問題を見いだして解決すべき課題を設定している

家庭・家庭分野

○生活の中から問題を見いだして題材の課題を設定している

外国語・外国語活動

○コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて既習表現を駆使しながら自分の思いや考えを伝え合っている

特別の教科 道徳

○道徳的価値について、広い視野から多面的・多角的に考え、自分との関わりの中で理解を深めている

特別活動（学級活動）

○問題や課題を自分事として捉え、集団や自己をよりよくするための解決方法を考え、実践している

総合的な学習の時間

○よりよい課題の解決に向けて、多様な他者との関わりから自分の考えを確かにしている

幼児教育

○自分の思いをもち、試したり工夫したりしながら遊んでいる

各教科等の指導の重点

・児童生徒が活動や表現方法、材料を選択できたり、互いの活動や作品を自然と見合えたりする環境を設定する。

・技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における事象を、順序付ける、比較する、分類する等の活動を計画的に設定する。
・発達の段階、問題解決能力の熟練度等を踏まえ、生徒の実態に応じた学習活動を設定する。

・家庭科の問題解決的な学習の過程を教師と児童生徒が共有する。
・生活の中から問題を見いだした後、4つのステップで課題設定を導く。
→詳しくは、[令和5年度授業改善研修会資料参照](#)

・児童生徒が自分事として考えられるコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する。
・児童生徒の思いや考え、気付きを引き出す発問をする。

・多様な考えを引き出す中心発問と、本音を引き出す問い返しやゆさぶりなどの補助発問を構成する。
・考えさせたいことを明確にし、多様な視点から話し合う場面を設定する。

・意見の違いや多様性を認め合い、折り合いをつけて「合意形成」を図る活動を設定する。
・解決方法が自分に適しているかを客観的に見つめ直し、一人一人が「意思決定」する活動を設定する。

・児童生徒の実態を十分に把握し、探究課題との出会いをもとに、現在の状況を他と比較する活動を設定する。
・目的や相手を確認したり、考えを整理したりして児童生徒を支えながら、共に学ぶ姿勢を大切にする。

・幼児が自由に遊べる時間、場所、素材を十分に確保する。
・幼児の興味・関心、思いの見取りを基に、環境を再構成する。